

観点	内容と特色	該当ページ
材料や用具の取り扱い	完成作品の例が掲載されているだけでなく、その制作過程や思考の過程が適宜示されており、生徒が制作の手順などを考え、見通しをもって活動に取り組めるよう工夫されている。	『美術 1』P.10～11,P.16～17,P.21, P.32～33,P.40～41,P.48～59 『美術 2・3』P.11,P.22～23,P.28,P.30,P.47, P.52～53,P.63,P.66～67,P.76,P.80～83
	特に、各冊の巻末の「学習を支える資料」では材料や用具の取り扱いが整理されて掲載されているとともに、表現中心の題材のページの右下には、「学習を支える資料」との関連を示すマーク「巻末資料へのリンク」マークが示されているので、生徒にとって使いやすい構造になっている。	全体 『美術 1』P.48～59 『美術 2・3』P.80～83
知識・理解を深めるための資料	第2・3学年の「学習を支える資料」では、美術史上のトピックを扱った「トピックス美術史」と「美術史年表」が設けられ、美術文化に関する知識・理解が深まるよう配慮されている。	『美術 2・3』P.92～100
他教科や学校生活との関連	国語科をはじめ、社会科や技術・家庭科、道徳、総合的な学習の時間と関連を図ることができる題材や作例が随所に紹介されており、教科等を横断した活動にも有効に活用することができる。	全体
表紙の工夫	表紙の作品と対応して、各冊の裏表紙には、その作家の紹介や作品解説が掲載されており、美術に対する生徒の興味・関心をより高めるとともに、鑑賞中心の題材として活用することができる。	表紙
5 表記・表現		
もくじ・マークの示し方	各冊のもくじは、P.4 および裏表紙の2箇所に示されており、授業がより円滑に進むよう工夫されている。また、教科書に使用されているマークは、誰もが識別しやすい形や色で示されており、有効に活用できる。	表紙 各冊 P.4 他
書体・表記への配慮	読みやすさに配慮して、本文には、教科書のためにデザインした光村明朝体を用いている。教科書上の表記を統一するとともに、未習漢字や固有名詞などには、見開きごとに読み仮名をふり、学習が円滑に進むよう配慮されている。	全体
	図版や写真のキャプションには、作品の名称・材料と技法・大きさ・制作年・作者名と生没年・出身地が示されている。適宜、簡潔な解説文が添えられており、学習を進める上で有効な情報となっている。	全体
版型・造本の工夫	A4 版正寸の紙面を生かしたダイナミックなデザインとなっている。特に、1 ページ大以上の大きさで掲載された作品は細部までが鮮明に見て取れ、より充実した学習が期待できる。	『美術 1』P.2～3,P.8～9,P.22～27, P.42～43 『美術 2・3』P.2～3,P.8～9,P.18～19, P.24～25,P.40～45,P.48～49, P.76～77,P.104～105
	各冊には3 ページつづきのページや両観音ページが設けられており、視覚的に生き生きとした紙面構成で、生徒の興味・関心や学習意欲を高めることができる。	『美術 1』P.5～7,P.23～26 『美術 2・3』P.5～7,P.41～44
6 印刷・製本		
印刷の鮮明度	美術作品や写真などについて、色彩や原画のもつ質感が忠実に再現できるよう、印刷効果のよいコート紙を使用している。文字も含めて鮮明な印刷となっており、学習に適したものとなっている。	全体
	一部の作品では原画の色彩を忠実に再現できるよう、特色を用いた5色印刷で、より本物に近い印刷が工夫されている。	『美術 1』P.23～26
製本の堅牢性	表紙はPP ラミネート加工を施し、水や画材などによる汚れにも耐えられるよう工夫されており、製本についても、長期間の使用に耐えられる綴じ方を採用している。	全体
環境への配慮	環境に配慮した用紙や、エコマーク認定の植物油インキを用いていることが明示されており、環境の保全や生徒の健康に対して、十分な配慮がなされている。	全体

観点	内容と特色	該当ページ
1 目標達成への配慮		
教育基本法、学校教育法との対応	教育基本法、学校教育法の理念を踏まえ、中学校美術科の学習を通して幅広い知識と教養を身につけ、さらに、思考力・判断力・表現力など、生きる力を支える能力をも養えるよう配慮されている。	全体
学習指導要領との対応	学習指導要領の教科目標を達成するために、生徒が美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を身につけ、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことができるよう配慮されている。	全体
2 今日的な教育課題への対応		
道徳教育との関連への配慮	「他者への思いやり」「人権」「平和」「伝統文化」「自然」「環境」など、道徳教育に関連する題材が積極的に取り上げられており、豊かな情操を養い、道徳心を涵養する内容となっている。	全体
	特に、道徳の学習と関連して扱うことができるページの左下には、関連を意味する「道徳との関連」マークが適宜示されており、生徒にとって、道徳の学習と教科との関連が意識できるよう工夫されている。	『美術 1』P.14,P.18,P.28,P.44 『美術 2・3』P.16,P.22,P.26,P.30,P.46,P.50, P.54,P.56,P.62,P.64,P.70,P.72,P.101
	全体を通し、東日本大震災を受けての美術やデザインの取り組みが随所に取り上げられており、他者を思いやり助け合う心の育成に資する内容になっている。	『美術 2・3』P.17,P.26,P.46,P.71 他
伝統文化を尊重する態度の育成への配慮	伝統文化を尊重する態度を養うために、我が国で大切にされてきた伝統と文化が積極的に取り上げられている。日本の国宝に指定されているものについては、作品名に「日本の国宝」マークを添えて示している。	『美術 1』P.22～27,P.29,P.42～43 『美術 2・3』P.2～4,P.18～19,P.63,P.92, P.98～99
	「屏風」「和菓子」「着物」「日本の伝統色」「地域の伝統工芸」「祭りや風習」「アイヌや琉球の文化」など、郷土で育まれてきた美術文化が積極的に紹介されており、それらを愛し、大切にする態度を養うことができるよう配慮されている。	『美術 1』P.22～27, P.28～29, P.44～45,P.60 他 『美術 2・3』P.62～63,P.84～85 他
人権教育への配慮	ユニバーサルデザインの例や、障害のある人が無理なく社会生活を営めるよう工夫されたデザインなどの例が積極的に取り上げられており、人権・福祉の観点から見ても十分に配慮されている。	『美術 2・3』P.56～57,P.70～71,P72～73
	各冊を通して、写真に写る生徒や登場するキャラクターなどに性別による偏りがないよう、人権上の配慮がなされている。取り上げる作品の著作者についても、性別による偏りがない。	全体
環境教育への配慮	身の回りの自然をスケッチする活動や、流木や葉など自然の材料を生かしてつくる活動、地域の材料を生かした作例が随所に取り上げられており、学習を通して自然を大切にする態度が培われるよう配慮されている。	『美術 1』P.8～9,P.18～19,P.64～65 『美術 2・3』P.61,P.68,P.71,P.91
	自然環境を守る視点や資源を大切にする視点に立ったポスターやデザイン、環境に配慮した町づくりの取り組みなどが積極的に紹介されており、環境の保全に寄与する態度を養うことに有効である。	『美術 1』P.18～19 『美術 2・3』P.50～53,P.70
主体的な学習態度の育成への配慮	各題材の目標や本文では、「～だろうか」「～しよう」といった問いかけや活動を促す表現を用い、生徒自らが考え、判断し、真理を求めようとする態度が養われるよう配慮されている。	各冊 P.8～9 他
	各冊の巻末に「学習を支える資料」が設けられており、生徒が必要に応じて技法や用具の扱い方などを知り、自らの課題に沿って学習を広げたり深めたりすることができるよう配慮されている。	『美術 1』P.46～67 『美術 2・3』P.78～105
平和教育や国際理解への配慮	生徒に平和を希求する心が育つよう、また、広く国際社会の発展を願う心が育つよう、平和や国際協力について考えさせるきっかけとなるポスターやデザインの例、生徒作品などが積極的に取り上げられている。	『美術 2・3』P.40～45,P.46～47, P.50～53,P.72～73
	日本と西洋の作例だけでなく、アジア諸国をはじめさまざまな国や地域の作例が取り上げられている。それらを比較したり共通点を示したりする課題も設定されており、自国の文化のみならず他国の文化も尊重する態度が養われるよう配慮されている。	『美術 1』P.30～31,P.44～45 他 『美術 2・3』P.20～21,P98～100 他

観点	内容と特色	該当ページ
言語活動の充実	各冊の巻頭や「特別展示室」などに配されている詩は、いずれも生徒が美術に親しみや共感を抱くために有効なものとなっている。また、作者の心情や制作の意図を伝える「作者の言葉」が随所に示され、生徒の学習意欲を高め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な環境が整えられている。	『美術 1』 P.2 ～ 4,P.22 ～ 27 他 『美術 2・3』 P.2 ～ 4,P.24 ～ 25,P.26 ～ 27, P.40 ～ 45 他
	グループで話し合いながら作品をつくったり、発表したりする活動、自身の作品に対する思いを言葉にして添えたりする活動が随所に設定されており、コミュニケーション能力の育成と言語活動の充実を図ることができる。	『美術 1』 P.5 ～ 7,P.22 ～ 27 他 『美術 2・3』 P.5 ～ 7,P.24 ～ 25,P.26 ～ 27, P.40 ～ 45,P.52 ～ 53 他
特別支援教育・色覚特性への配慮	題材名・小見出し・解説など、役割によって文字の大きさや種類が使い分けられている。枠囲みを使ったデザイン処理なども、識別しやすく学習しやすいものとなっており、学習上支援が必要な生徒にとっても、理解しやすい紙面となっている。	全体
	紙面にあるインデックスやマークは、色覚特性のある生徒にも識別しやすい色が選ばれている。背景色と文字の組み合わせについても工夫が見られ、カラーユニバーサルデザインの観点から十分な配慮がなされている。	全体
	特に、「色と光の特徴を知ろう」に掲載している色相環では、12 色相の色名を記載しており、色覚特性の観点からの配慮がなされている。色名は、日本色彩学研究所による PCCS の表記に則っている。	『美術 1』 P.62
生活と美術との関連への配慮	つくった作品を飾ったり使ったりする活動や、身近な人に贈ってコミュニケーションを深める活動などを取り上げ、実生活で果たす美術の役割を具体的に示している。その他、生活と美術との関わりを取り上げたコラムもあり、有効に活用できる。	『美術 1』 P.16 ～ 17,P.21,P.39,P.40 ～ 41,P.55 『美術 2・3』 P.5 ～ 7,P.39,P.55,P.69,P.74
	特に、生活とのつながりが明確な活動に関しては、関連を意味する「生活に生かそう」マークが示されており、生徒にとって、生活と教科との関連が意識できるよう工夫されている。	『美術 1』 P.11,P.16,P.21,P.39,P.40,P.55 『美術 2・3』 P.12,P.39,P.46,P.55,P.60,P.69, P.74,P.83
安全指導への配慮	各冊の「学習を支える資料」では、作品をつくる際の注意事項を「安全の注意」マークを添えて示している。特に彫刻刀や電動糸のこぎりなど、安全な使い方が求められるものについて丁寧な記述があり、有効に活用できる。	『美術 1』 P.58 ～ 59 『美術 2・3』 P.81,P.82
知的財産権や肖像権への配慮	写真や動画を撮影したり、音楽などを使用したりする可能性のある活動の中で、他人著作権や肖像権をむやみに使用することがないよう注意を促す文章を記した「安全の注意」マークが示されており、知的財産権や肖像権に対する配慮がなされている。	『美術 2・3』 P.81
キャリア教育への配慮	美術家やデザイナーなど、社会で活躍するつくり手の活動や言葉が示されており、生徒の職業への意識や労働を重んずる態度が養われるよう配慮されている。	『美術 1』 P.46 ～ 47 他 『美術 2・3』 P.78 ～ 79 他
地域性への配慮	題材や作例は、農村漁村・都市などの地域的な偏りを避け、全国共通で行うことができる題材を中心に構成されている。また、作例は一つの国や都道府県に偏ることなく、全体を通してバランスよく選定されている。	全体
3 構成・分量・配列		
生徒の発達段階への配慮	第 1 学年では、幼児教育や小学校図画工作科とのつながりを考え、第 2・3 学年では、身につけた資質や能力をさらに深め、歴史や社会との関係に視野を広げるなど、内容の系統性や学年の発達段階に配慮した構成となっている。	全体
	第 2・3 学年を 1 冊にまとめ、豊富な題材を各校の実情に合わせて選択できるように配慮されている。もくじで題材の推奨学年が示され、内容の系統性に応じて構成が整理されている。	『美術 2・3』 全体
	各冊の導入部では、図画工作科から美術への流れ、生活や社会の中での美術の働きが生徒の発達段階に合わせて示されており、年度ははじめのオリエンテーションの授業で有効に活用することができる。	『美術 1』 P.5 ～ 7 『美術 2・3』 P.5 ～ 7
	各冊の巻末の「学習を支える資料」では、基礎的な技法や資料が主に第 1 学年にまとめられている。3 年間を通して生徒自らが必要に感じたときにいつでも参考にできるよう、構成が工夫されている。	『美術 1』 P.46 ～ 67 『美術 2・3』 P.78 ～ 105
題材の配列・分量・程度	各冊とも、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」という領域別に構成されており、「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」の題材内容と領域が併記されたインデックスが、ページ左上に記載されている。インデックスはそれぞれに色分けされているので、生徒にとって学習の内容がイメージしやすいあらし方になっている。	全体
	各冊とも、題材数・領域のバランス・時間配当に十分な配慮をしている。「学習を支える資料」を活用することで、地域・学校の実情に合った指導が可能になるとともに、2 学期制・3 学期制のどちらにも対応できる。	全体
	学習の中心となる題材は、表現中心の題材と鑑賞中心の題材に分かれ、それぞれのバランスや配列が学習しやすいように配慮されており、表現と鑑賞の相互の関連を図ることができる。	全体

観点	内容と特色	該当ページ
題材の配列・分量・程度	表現中心の題材では、絵や彫刻、デザインや工芸など、多様な表現方法が取り上げられている。また、スケッチ、映像メディア、イラストレーションなども取り上げ、生徒が主題や自分のイメージに合わせて表現方法を選択することができるよう配慮されている。	全体
	鑑賞中心の題材では、「説明し合ったり批評し合ったりする」「比較する」「美術文化について知識・理解を深める」「表現との関連を考える」など、多様な鑑賞活動がバランスよく示されている。掲載された作品も、一つの地域や時代に偏らないよう配慮されている。	全体
目標の示し方	表現中心の題材、鑑賞中心の題材のいずれについても、題材名の横に観点別の「目標」が示されており、身につけたい力や学習のねらいが生徒に明確に伝わるよう工夫されている。	全体
	題材名の横に示された観点別の「目標」には、それぞれの文頭にチェック欄が設けられており、生徒自らが学習を振り返り、目標が達成できたかどうかを確かめることができる。	全体
〔共通事項〕の示し方	学習指導要領で示された〔共通事項〕に関する問いかけが目標の下に明示されており、全ての題材において、〔共通事項〕の内容を意識しながら学習を進めることができる。	各冊 P.8 ～ 9 他
	「学習を支える資料」内に、「形・色・材料・光の特徴を知ろう」が設けられており、生徒が〔共通事項〕の資料を適宜、表現や鑑賞の活動に生かすことができる。	『美術 1』 P.60 ～ 65 『美術 2・3』 P.84 ～ 91
掲載作品の選定と取り扱い	掲載作品は、一つの地域や時代に偏らないよう選定されている。作家作品と生徒作品のバランスにも十分な配慮がなされており、生徒の発達段階に合った、充実した学習活動が期待できる。	全体
	児童・生徒作品は、全体で 182 点掲載されており、生徒の学習意欲の向上につなげることができる。	全体

4 編集上の創意・工夫		
「感じたことを話し合おう」「美術の授業、最後の時間に」の設置	各冊の巻頭「感じたことを話し合おう」および第 2・3 学年の巻末「美術の授業、最後の時間に」では、見開き（2 ページ）で一点の作品を掲載しており、作品を見ることを楽しみ、感じ取ったことを自由に話し合える工夫がなされている。	『美術 1』 P.2 ～ 3 『美術 2・3』 P.2 ～ 3,P.104 ～ 105
「特別展示室」の設置	各冊に両観音（4 ページ）で一点の作品をダイナミックに掲載する「特別展示室」を設け、生徒の興味・関心を喚起するとともに、鑑賞活動がより充実したものとなるよう工夫されている。	『美術 1』 P.22 ～ 27 『美術 2・3』 P.40 ～ 45
	「特別展示室」では、その美術作品とともに生徒が共感を抱くことができる詩が取り上げられており、活発な言語活動が期待できる紙面となっている。	『美術 1』 P.22 ～ 27 『美術 2・3』 P.40 ～ 45
「原寸大で鑑賞しよう」の設置	各冊に、1 ページ大以上の大きさで、作品を原寸大で掲載する「原寸大で鑑賞しよう」を設け、作品の細部にわたって表現の工夫を鑑賞できるよう工夫されている。	『美術 1』 P.42 ～ 43 『美術 2・3』 P.24 ～ 25,P.48 ～ 49,P.76 ～ 77
	「原寸大で鑑賞しよう」では、生徒の鑑賞活動を促す問いかけが吹き出しで示されており、生徒が興味・関心をもって作品と向き合えるよう工夫されている。	『美術 1』 P.42 ～ 43 『美術 2・3』 P.24 ～ 25,P.48 ～ 49,P.76 ～ 77
	「原寸大で鑑賞しよう」では、作品の時代背景や作品と関連する表現活動などが掲載されており、「美術文化について知識・理解を深める」「表現との関連を考える」という幅広い鑑賞活動が期待できる紙面となっている。	『美術 1』 P.42 『美術 2・3』 P.24,P.48,P.76
発想・構想の力を高めるための工夫	「発想・構想の能力」を育むために、表現中心の題材の随所に「発想・構想のヒント」をマークで示し、生徒が発想を広げたり構想を練ったりする際の参考となるよう工夫されている。	『美術 1』 P.10.P.13.P.18.P.32.P.34.P.36,P.39 『美術 2・3』 P.11,P.14,P.17,P.19,P.20,P.28,P.33, P.35,P.36P.52,P.54,P.56,P.59,P.61,P.66,P.68,P.73
	各冊の各領域の表現中心の題材に「4 ページ題材」を設け、題材のテーマに沿った多くの作品や図版、活動例が掲載されており、幅広い表現活動が行われるよう構成されている。	『美術 1』 P.8 ～ 11,P.30 ～ 33 『美術 2・3』 P.8 ～ 11,P.26 ～ 29, P.50 ～ 53,P.64 ～ 67
	「4 ページ題材」では、はじめの 2 ページで生徒の学習意欲が向上するような作品や図版がダイナミックに掲載されており、生徒の興味・関心を促すとともに、表現活動の導入としての鑑賞活動を支えるページとして、表現と鑑賞の関連が図られている。	『美術 1』 P.8 ～ 9,P.30 ～ 31 『美術 2・3』 P.8 ～ 9,P.26 ～ 27, P.50 ～ 51,P.64 ～ 65
	「4 ページ題材」では、関連する題材に取り組む男女一各ずつの生徒の姿を紹介した「みんなの工夫」が設けられている。主題の生成から試行錯誤を経て完成にいたるまでの作品づくりの過程が取り上げられており、生徒の表現活動の参考を示すとともに、個人によって異なる感性を示すことで、生徒が安心して自分の表現を追求できるよう配慮されている。	『美術 1』 P.10 ～ 11,P.32 ～ 33 『美術 2・3』 P.11,P.28,P.52 ～ 53,P.66 ～ 67